

平成 30 年度後期 教養教育科目

「なら学+ (プラス)」(地域志向科目)

～奈良を通じて地方創生への知見を深めよう!～



奈良女子大学

やまと共創郷育センター

はじめに

奈良女子大学は、平成 27 年度に文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、奈良工業高等専門学校及び奈良県立大学とともに、奈良県内の地方公共団体や企業等と協働して、地域志向に向けたカリキュラムの展開と各種就職支援行事の実施を通じて学生が奈良県への興味関心を高め、自身の就職先として奈良県を選択してもらえよう事業に取り組んでいます。

平成 30 年度後期に、「奈良を知り奈良を好きになる契機とする科目（地方創生理解科目）」として、全学共通の教養教育科目「なら学+（プラス）」を開講しました。本科目は、これまで教養教育科目として開講してきた「なら学」に“奈良で働く、奈良で暮らす”というCOC+的要素を加えたもので、平成 28 年度に「キャリアデザイン・ゼミナール(C4)」（日本の奈良を知る）として開講したのち、卒業要件単位に含まれる科目として平成 29 年度に新規開講したものです。

奈良県の伝統（地場）産業や基幹産業を中心に各回のテーマを設定し、連携校である奈良工業高等専門学校から工学系ものづくり、奈良県立大学から観光・地域創造学、協力校である奈良佐保短期大学から生活福祉といった専門的な知見の提供を受けたほか、奈良県をはじめとする自治体や県内企業経営者並びに専門的な業務に携わる方々を実務家教員としてお迎えし、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて講義していただきました。

本冊子は、全 15 回の授業概要と学生の小レポートから抜粋した感想、担当講師からのフィードバックを紹介していますのでご一読下されれば幸いです。

本講義を開講するにあたり、ご協力いただきました自治体、企業、団体の皆様にあらためて御礼申し上げます。

平成 31 年 2 月

やまと共創郷育センター長

成瀬 九美

やまと共創郷育センター特任教授

COC+コーディネーター

前川 光正

平成 30 年度後期開講「なら学+ (プラス)」(地域志向科目) ～奈良を通じて地方創生への知見を深めよう!～

やまと共創郷育センターでは、平成 30 年度後期に地域志向科目の一つである「なら学+ (プラス)」(教養教育科目)を開講しました。この授業は、COC+参加大学、県内自治体・企業から多彩なゲストスピーカーをお迎えし、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶことによって、問題解決力、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、地元に戻っても活躍できる未来の地域リーダーの育成を目指しています。今年度は全学部から 208 名の学生が受講しました。講義スケジュールは下記の通りです。1 コマ 90 分の授業に、行政・民間双方からゲスト講師を実務家教員としてお招きし、多面的なモノの見方を促し、また授業冒頭には、前回授業の受講生感想と、講師からのコメントをもとに振り返りを行い、奈良の課題を様々な他者と学ぶ授業構成として展開しました。

最終講義は公開授業とし、本学サテライト教育施設のある十津川村ならびに野迫川村で活動している学生の取組実績発表に加え、南都経済研究所主任研究員による地方創生にかかる総括講演を行いました。

平成 30 年度 なら学+ (プラス) 授業スケジュール

	授業内容	担当教員 (ゲスト講師)
1	ガイダンス	やまと共創郷育センター (成瀬・前川)
2	奈良でのコンテンツツーリズムを考える	奈良県立大学【COC+参加校】
3	観光産業への理解を深め、課題を探る	奈良市観光協会&飛鳥観光協会
4	女性の起業やワーク&ライフプランを考える	奈良県女性活躍推進課&(株)Table a Cloth
5	生活福祉 (地域で暮らす) を考える	奈良佐保短期大学【COC+協力校】
6	地域福祉 (地域で暮らす) を考える	奈良県社会福祉協議会&(社福) 功有会
7	モノづくりを通じての地方創生	奈良工業高等専門学校【COC+参加校】
8	伝統産業 (林業) の理解と課題を探る	奈良県森林技術センター&(株)イムラ
9	産学連携と伝統・地場産業 (靴下) の理解と課題を探る	奈良女子大学&(株)キタイ
10	伝統・地場産業 (製菓) の理解と課題を探る	奈良県菓子研究センター&田村薬品工業(株)
11	地域社会における技術者の役割	奈良工業高等専門学校【COC+参加校】
12	奈良の現代産業に聞く	(株)ATOUN&DMG森精機(株)
13	柿 (奈良特産) を通じたマーケティングを考える	奈良県農林部&(株)マックス
14	地方自治体の役割・課題を探る	奈良県地域振興部&下市町
15	学生による地域活動事例発表と総括講演	本学学生&(一財)南都経済研究所

なら学+ (プラス) 開講予定!

物産多岐なゲスト講師をお招きし、奈良の取り組みや課題についてお話しいただきます。奈良の魅力が加えられることで、地域が抱える課題を導き、その解決策・モノづくりを通じて一緒に考えましょう。【奈良県立大学で充分】【奈良県立大学】【川】で地場産業の発展が期待できない!と「なら学+」大歓迎!

後期 火曜 5,6限 13時~14時30分 S235教室

<p>●1回目● 10月2日 (火) ガイダンス やまと共創郷育センター長 成瀬 九英 COC+コーディネーター 藤井 美正</p>	<p>●2回目● 10月9日 (火) 「なら学+」のコンテンツツーリズム 奈良県立大学 特任教授 坂本 崇士 氏</p>	<p>●3回目● 10月16日 (火) 観光産業への理解を深め、課題を探る 奈良市観光協会 代表理事 藤田 浩二 氏</p>
<p>●4回目● 10月23日 (火) 女性の起業やワーク&ライフプランを考える 奈良県女性活躍推進課 課長 武田 千尋 氏</p>	<p>●5回目● 10月30日 (火) 生活福祉 (地域で暮らす) を考える 奈良県社会福祉協議会 功有会 代表理事 藤井 美正 氏</p>	<p>●6回目● 11月6日 (火) 地域福祉 (地域で暮らす) を考える 奈良県社会福祉協議会 功有会 代表理事 藤井 美正 氏</p>

<p>●7回目● 11月13日 (火) 伝統産業 (林業) の理解と課題を探る 奈良県森林技術センター 代表理事 伊藤 大輔 氏</p>	<p>●8回目● 11月20日 (火) 産学連携と伝統・地場産業 (靴下) の理解と課題を探る 奈良女子大学 教授 藤田 浩二 氏</p>
<p>●9回目● 11月27日 (火) 伝統・地場産業 (製菓) の理解と課題を探る 奈良県菓子研究センター 代表理事 田村 浩二 氏</p>	<p>●10回目● 12月4日 (火) 地域社会における技術者の役割 奈良工業高等専門学校 教授 藤田 浩二 氏</p>
<p>●11回目● 12月11日 (火) 奈良の現代産業に聞く (株)ATOUN 代表取締役 藤田 浩二 氏</p>	<p>●12回目● 12月18日 (火) 柿 (奈良特産) を通じたマーケティングを考える 奈良県農林部 部長 藤田 浩二 氏</p>
<p>●13回目● 12月25日 (火) 地方自治体の役割・課題を探る 奈良県地域振興部 部長 藤田 浩二 氏</p>	<p>●14回目● 1月1日 (火) 学生による地域活動事例発表と総括講演 本学学生 & (一財)南都経済研究所</p>

この授業は、奈良県立大学 奈良工業高等専門学校 奈良女子大学の協賛で開催し、COC+参加校の授業です。COC+参加校の協賛により、授業料が無料であることが最大のメリットです。また、COC+参加校の協賛により、授業料が無料であることが最大のメリットです。また、COC+参加校の協賛により、授業料が無料であることが最大のメリットです。

<お問い合わせ先> やまと共創郷育センター
TEL: 0742-20-3989
e-mail: coc-plus@coc-plus.ac.jp

平成 30 年度「なら学+ (プラス)」
～奈良に提案したいこと～

「なら学+ (プラス)」では、地域で活躍する人材の育成を主として奈良県内の企業、自治体からゲストスピーカーをお招きし、奈良の課題を導き、奈良が抱える課題を導き、その解決策・モノづくりを通じて一緒に考えましょう。【奈良県立大学で充分】【奈良県立大学】【川】で地場産業の発展が期待できない!と「なら学+」大歓迎!

最終日には、奈良県農林部にある本学サテライト施設を拠点とした学生の活躍を報告します。また、南都経済研究所からの講演も交えて、講義を通して得たものを振り返りさせていただきます。

と き: 平成 31 年 1 月 29 日 (火)
午後 1 時から午後 2 時 30 分
と ころ: 奈良女子大学 文学系 5 棟 2 階
S235 教室 (大講義室)

<おもな内容>

- ・活動紹介 学生による事例報告
- ・総括講演 「地方創生と社会人基礎力」 一般財団法人 南都経済研究所 主任研究員 賀 村 康 一 氏

当日は公開講座です

●「なら学+ (プラス)」は南都経済研究所のみで開講していますが、最終日には多くの皆さんに受講を希望できるように公開講座を行います。学生でのご参加には事前申込、あるいは会場にてお申し込みのうえにお申し込みいただけます。ぜひお申し込みください。

1. ガイダンス (平成30年10月2日実施)

やまと共創郷育センター センター長 成瀬 九美
COC+コーディネーター 特任教授 前川 光正



(1) 授業概要

世界遺産、史跡・名勝に囲まれた「奈良」というフィールドを通じて、地域社会の抱える課題を見つけ、地方創生、地(知)の拠点づくりについて考察した。「奈良の魅力を身近に触れながら、課題発見、問題解決、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、都会や地元に戻っても活躍できる「生きた知」を身に付けた未来の地域リーダーを育成する。」という授業目的や概要を説明し、授業スケジュールならびに成績評価の説明を行った。

また、受講学生に「この授業であなたはどのような知識を深めたいですか」と問うた。

(2) 「この授業であなたはどのような知識を深めたいですか」に対する学生の回答 (抜粋)

- ・ 社会に出ても役立つような様々なものの見方・考え方を身につけたい。
- ・ 自分の出身県のことについても、深く考えていきたい。
- ・ 女性の立場から地域に貢献するための知識を得たい。
- ・ 社会にでて活躍している人の考え方について学びたい。
- ・ 学生生活を豊かにするだけでなく、就職活動の役に立てられたらと思う。
- ・ 自分自身のワーク&ライフプランについて考えたい。
- ・ 様々な分野のゲスト講師からの話に関心がある。
- ・ 奈良の観光・伝統産業に興味がある。
- ・ なぜ、奈良から人が出て行ってしまうのか？そして私は奈良で何ができるのか学びたい。
- ・ 自分が住む地域でも応用できる課題解決力を身に付けたい。
- ・ メディアを使った地域の活性化に興味がある。

講義コード 0139550

なら学プラス(+)

文部科学省 地(知)の拠点

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)関連授業

ガイダンス 10月2日(火) 13時~ S235教室

温故知新 故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知る(ふるきをあたためて新しきを知る。)
過去の事実を研究し、そこから新しい知識や見解をひらくこと。

↓

温奈良知新 **奈良を通して地方創生への知見を深めます!**
「奈良」をフィールドとして地域社会の抱える問題を見つけ、その解決策をともに考えてゆきます。奈良で働く人からのメッセージを受けてキャリアプランを豊かにし、生きた「知」を身に付けた未来の地域リーダーの育成を目指します。

キーワードは、**地域づくり、地域リーダー、**
伝統産業、ものづくり、女性の働き方
など

多彩なゲスト講師(実務家・OG)
自治体(外郭団体)
産業界経営者(実務家)

2. 「奈良でのコンテンツツーリズムを考える」(平成30年10月9日実施)

奈良県立大学 特任准教授 増本 貴士 様

(1) 授業概要

「人々との共創が織り成すコンテンツツーリズム」について、学生へのキャリア教育、地元資産(歴史・文化・景勝等)の再確認・活用面から説明いただいた。地域・ファン・運営側の3者がお互いを尊重し、その場所や作品を大切にしつつ、お互いの活動を尊重し、持続可能なこととして取り組んでいくことが重要であること、観光・消費・コミュニケーションの3行動がコンテンツツーリズムとなり地域振興につながることを講義いただいた。また、奈良でのコンテンツツーリズムの実例紹介をいただいた。



(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・コンテンツツーリズムという言葉は初めて聞いたが、面白くて興味深い話であった。
- ・コンテンツツーリズムは今まで全く知らなかった。意識したことがなかった。
- ・新たな視点からのアプローチは、若い世代の集客に大きな効果があると思います。
- ・聖地巡礼という形の観光に抵抗を感じる地域住民への説明・理解が必要と思う。
- ・SNS等により情報が拡散されやすいので聖地巡礼はこれからもっと盛り上がると思う。
- ・アニメやドラマ・小説など舞台となっている作品と実際の場所をまとめた冊子を作り「奈良にはこんなにモデルとなっている地がある！」とアピールが必要と感じた。
- ・人のつながりや工夫次第でどの地域でも可能性が無限にあるのが面白いと思う。
- ・アニメ・ドラマ・映画の終了後でも長期・継続的に観光客を集めるのに課題を感じた。



(3) 授業成果(担当教員前川コメント)

COC+参加校で地域創造学部を擁する大学から「観光」をテーマにしたコンテンツツーリズムの講義をいただいた。学生からはコンテンツツーリズムは今まで全く知らなかったが、“万葉集”、“古墳”を活かした奈良のコンテンツツーリズムの提案や、奈良南部を紹介するオリジナルアニメの作成といった意見もあり、コンテンツツーリズムという新たな地域振興策への関心を深めることが出来た。

3. 「観光産業への理解を深め、課題を探る」 (平成30年10月16日実施)

(公社) 奈良市観光協会 専務理事 高橋 一 様

(一社) 飛鳥観光協会 事務局長 小野 智貴 様

(1) 授業概要

奈良市観光協会からは、奈良の観光の現状と大阪・京都への近接ならびに人気があるのに滞在時間が少ないといった課題、観光情報の多様化への対応の話の他、奈良市観光協会の事業計画についても講義いただいた。一方、飛鳥観光協会からは飛鳥の観光資源は豊富だが歴史的景観は住民の努力により保持されていることや、「観・感・泊・食・買」をキーワードにした「明日香まるごと博物館」実現に向けた取組について講義いただいた。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・滞在時間が少なく、「奈良にお金が落ちない」という課題がよくわかった。
- ・奈良に関りを持つ者として、奈良の観光についての課題を共に知り考えることができ良かった。
- ・奈良市・明日香村とも、現代人が一度立ち返らなければならない日本の魅力を感じることができる場所なので、もっとその点を活用して欲しい。
- ・新しいものを創造するより、地域にあるものを生かして集客したほうが、リピーターになってもらえるのかなと感じました。



(3) 授業成果 (担当教員前川コメント)

奈良と言えば「大仏と鹿」といわれるように観光産業が主体というイメージがある。インバウンド効果により日中は外国人で賑やかな奈良市と知名度は抜群だが昭和60年以降観光客数が減少している明日香村から外部講師を迎え、観光の現状と課題ならびに新たな取組等について学ぶことにより、資源を活かしながら地方創生へのアプローチ方法の多種・多様性について観光に携わるプロから実践的に学ぶことが出来た。



4. 「女性の起業やワーク&ライフプランを考える」(平成30年10月23日実施)

奈良県 女性活躍推進課 塚本 功 様
株式会社Table a Cloth 代表取締役 岡田 奈穂子 様

(1) 授業概要

奈良県女性活躍推進課塚本様から、女性の就業状況(就業率・県外就業率・管理職割合)といった現状説明を受け、働きたい女性が働ける環境を作るためにはどのような取組が効果的かペアワークを実施した。手作りの旅を提案する株式会社Table a Cloth を設立された岡田様からは、「会社員時代に企業で働いてよかったこと」と「起業をしてもよかったこと」を、自身の体験を踏まえて両面から講義いただいた。



(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・女性の就業率について奈良県が最下位なのには驚いた。
- ・女性が働きやすい環境・職場を作ることが一番の解決策。
- ・教育熱心でまじめな県民性を生かした働き方により奈良の将来性が期待できる。
- ・起業は大きな利益を得るという野望をもった人がするものと思っていた。
- ・夢や自分の生きる意味を考えて起業された岡田さんは、すごく前向きで本当に生き生きと見えました。
- ・リスクを伴う起業には全く興味がなかったが、実際に起業されている岡田さんはきらきらとして素敵だなと感じました。
- ・岡田さんの話を聞いて、起業という選択肢が身近に感じられた。



(3) 授業成果(担当教員前川コメント)

奈良女子大生が奈良県に提案した「女子大生のためのキャリア形成・県内就職プロジェクト」の案内のほか、実際に起業された岡田様からは、学生との年齢も近いことや「好きなことだから続けられる」といった話など、学生が未来を選択するヒントや受講生に対する起業マインドの醸成にもつながる有意義な授業となった。

5. 「生活福祉（地域で暮らす）を考える」（平成30年10月30日実施）

奈良佐保短期大学 生活未来科 准教授 武田 千幸 様



(1) 授業概要

「介護」、「障害の概念と分類」、「介護保険制度」などすべての世代の人々が対象となる社会福祉について講義いただいた。また、加齢による体の変化、心の変化や、2025年には介護職員が34万人も不足するといった現状や、福祉と介護は日本で生活するすべての人々の課題であることを講義いただいた。

(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・生活福祉は、セーフティネットの役割というのが印象的でした。
- ・吉野郡の高齢化率の高さに驚いた。交通アクセスも悪いので、高齢者が高齢者を介護しなければならない状況になっているのではないだろうか？
- ・介護の職につきたい若者が思えるような機会を増やすことが大切だと思った。
- ・「何もかもしてあげるのは善意の押しつけでその人の能力を奪ってしまう」という言葉が印象的でした。
- ・「出来ないことを助けるのではなく、出来ることを増やすようにする」と聞いて、とても難しい職業だと思いました。
- ・技術系の分野から介護で使うロボットなどに興味があります。自分の専攻している分野とのつながりを知りたいです。
- ・長寿国を誇りにしている日本ですが、若者の負担が大きくなることに不安を感じます。
- ・家族の介護はつらく、また、老人ホームや介護施設に入所するのは、家族を見捨てるような感じがして、気が進まないと思っていましたが、「介護を家族だけでするには限界がある」という話を聞いて少し安心しました。
- ・最近の介護施設が家ようになっていて、キッチンとかトイレとかお風呂が私の知っている介護施設と違って驚きました。

(3) 授業成果（担当教員前川コメント）

日頃、福祉に関する授業を受ける機会の少ない受講生に向けてCOC+協力校である奈良佐保短期大学から「生活福祉（地域で暮らす）を考える」と題する講義をいただいた。福祉や介護の現状や課題について、身近に感じ、考える良い機会となった。



6. 「地域福祉（地域で暮らす）を考える」（平成30年11月13日実施）

奈良県社会福祉協議会 地域福祉課 岡本 晴子 様
(社福) 功有会 渡辺 真樹子 様
連佛 幸子 様

(1) 授業概要

奈良県社会福祉協議会岡本様からは、地域福祉の実践が地域創生とどのようにつながっているかについて事例を交えて講義いただいた。(社福)功有会の渡辺様、連佛様からは介護の担い手と介護職員の見通しや施設介護から在宅介護へ向かっていることならびに地域包括ケアシステムの講義と特別養護老人ホームでのひとコマを紹介いただいた。



(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・助けられるのが苦手な人が多いというエピソードを聞いてその通りだと思いました。
- ・一人暮らしでも快適に過ごせる社会が確立されていないことを初めて知りました。
- ・「あるものを生かすことが大切」という言葉が印象的でした。
- ・介護福祉士の大変さややりがいの多さが分かりました。
- ・サービスを受ける側もサービスを与える側もどちらも余計な負担を感じないような福祉になれば良いと思います。
- ・住み慣れた家で最後まで暮らしたいと答えた人が少なかったことに驚いた。私は死ぬまで奈良で生活したいです。
- ・これから団塊世代の方が後期高齢者になっていくという事で「大変なことになる」と悟りました。
- ・高齢化が進むことが問題ではなく、高齢化に合わせた社会が作られていないのが問題であることが新しく分かりました。
- ・施設への入所費は高額というイメージがありますが、制度の見直し等も必要なのではないかと思います。
- ・地域の住民同士のコミュニケーションが大切だと思いました。

(3) 授業成果（担当教員前川コメント）

学生にとっては、日頃馴染みのない地域福祉について民間の現場のプロからお話しいただき、学生に高齢者向けだけではなく、広く地域社会における福祉について考察させ、福祉のまちづくりから福祉でまちづくりに転換する時期にあることなどの理解に役立てることが出来た。



7. 「モノづくりを通じての地方創生」 (平成30年11月20日実施)

奈良工業高等専門学校 教授 藤田 直幸 様

(1) 授業概要

「技術者と科学者について」、「技術者の仕事の本質」、「ものづくりにおける文系と理系のコラボレーションの効果」について新商品を開発する場合の流れを通じて講義いただくとともに、モノづくりを通じて地方創生に貢献するための奈良工業高等専門学校の具体的な取組み事例の紹介がなされた。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・文系・理系などどちらかだけでは考えが偏る可能性があるため、文系・理系双方の意見を取り入れることがより良いモノづくりになると思いました。
- ・社会学や経済学に強い文系の方が市場を分析し、マーケティングをすると同時に、技術者である理系の方が新しい技術を用いることによって、人の生活をよりよくするものが生まれると思います。
- ・文系・理系のどちらが大事というよりもどちらも大事です。文系・理系の双方の協力により良い商品をスムーズに作る事が可能になります。



(3) 授業成果 (担当教員前川コメント)

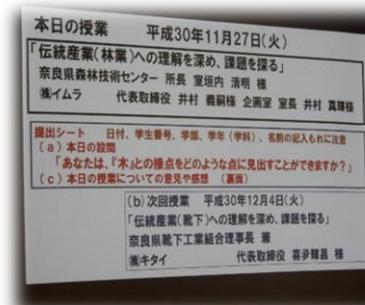
COC+参加校で工業系の教育機関である奈良工業高等専門学校から「モノづくりを通じての地方創生」の講義をいただいた。奈良県への企業誘致活動や県内企業との共同研究を通じて県内産業振興への貢献、人材・雇用場所の提供を実践されている取組紹介など本学学生にとって刺激を与える良い機会となった。

8. 「伝統産業（林業）の理解と課題を探る」（平成30年11月27日実施）

奈良県 森林技術センター 所長 室垣内 清明 様
㈱イムラ 代表取締役 井村 義嗣 様

(1) 授業概要

室垣内所長からは、木材の見本を持参いただき、吉野林業の歴史ならびに強みと課題、木材の長所と短所、奈良の木は健康・快適な暮らしに役立つことを講義いただき、奈良県が取り組んでいる木質化の事例などを紹介いただいた。一方、奈良県の木を最も多く使う住宅会社である㈱イムラの井村社長からは、「地産地消・自社で大工を育てる・川上村での森林体験学習の話」など吉野杉を通じたお客様との橋渡しや林業再生へのプロジェクト等を講義いただいた。



(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・実際に木に触れて年輪幅の違いに驚いた。
- ・女性が林業の世界でどのように活躍できるのか気になりました。
- ・木にしかない温かみや香りを生かした商品開発、利用が大切だと思った。
- ・イムラさんの大工さんの育成や子どもたちへの教育、社有林の育成など次世代への取組はすごいと思う。
- ・うまくメディアを活用して木と触れ合える機会を増やすことが大切だと思います。

(3) 授業成果（担当教員前川コメント）

奈良県森林技術センターからは、歴史がある吉野杉について行政・生産側からの話をいただいた。㈱イムラからは吉野材を使用するハウスメーカーという立場から講義いただいた。企業経営者である井村社長の、奈良の大切な資産である吉野杉を需要側・供給側双方の力で次世代に引き継ぎ育てなければならないという熱い思いが学生に響いた授業となった。



9. 「産学連携と伝統・地場産業（靴下）の理解と課題を探る」（平成30年12月4日実施）

奈良女子大学 研究・情報担当副学長 藤原 素子

奈良県靴下工業協同組合 理事長 兼 (株)キタイ 代表取締役 喜多 輝昌 様



(1) 授業概要

奈良女子大学藤原副学長から産学連携の意義ならびに共同研究による新事業の創出や新技術の研究開発、教育・地方創生の課題解決につながる講義をいただいた。また、奈良県靴下工業協同組合理事長で(株)キタイの喜多社長からは奈良県の地場産業である靴下の歴史、現状と課題のほか、靴下産地の活性化などについて講義いただいた。

(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・靴下ソムリエという言葉は初めて聞いた。
- ・おしゃれのひとつとして靴下を楽しむだけではなく、医療的な要素を持っている靴下は可能性を秘めていると思います。
- ・奈良県が靴下の国内最大の生産地とは初耳でした。
- ・奈良の靴下のこだわりが良く伝わってきました。
- ・今治がタオルで有名になったように「靴下と言えば奈良」といわれるようになって欲しいと思います。
- ・映像やポップを作って消費者に特徴を伝えたりするのがいいかなと思いました。
- ・靴下はもちろんです、奈良県はあまり自分たちの持つ良さをアピールできていないのかと思います。
- ・地元民でも奈良が靴下の大生産地であることを知らないし、他府県の人ならもっと知らないと思います。奈良県で一番有名なのは鹿です。鹿まろくんに奈良県の靴下を履かせてアピールすべきと思いました。
- ・もっと奈良県産靴下をアピールしていくべきだと思います。
- ・組合員の減少、生産量の減少など奈良の靴下産業の抱える課題を知ることが出来、有意義な時間でした。

(3) 授業成果（担当教員前川コメント）

スポーツバイオメカニズムが専門の藤原副学長から県内企業との共同研究のお話をいただき、産学連携が「靴下」という意外と身近な商品で行われていることを学んだ。喜多社長からは奈良の靴下にかかる熱い思いが受講生に伝わり、伝統産業、地場産業の大切さを学ぶ機会となった。



10. 「伝統・地場産業（製薬）の理解と課題を探る」（平成30年12月11日実施）

奈良県薬事研究センター 主任技師 蔦原 稜太 様
田村薬品工業㈱ 研究開発部 岡山 明子 様

(1) 授業概要

奈良県薬事研究センターから、奈良の薬の歴史、なぜ奈良の薬が地場産業として栄えたのか、奈良の薬の町の特徴などの講義をいただいた。田村薬品工業㈱の岡山研究員からは、西洋薬と漢方薬の効用や漢方セルフメディケーションの紹介を受けた。



(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・柿の蒂（へた）がしゃっくりに効くとは知りませんでした。
- ・奈良の薬の歴史を知ることができ非常に興味深かった。
- ・生活習慣の乱れを改善するのに役立ち、年齢を問わず効果的なものだと思います。
- ・富山の方が有名に感じてしまうのが残念です。
- ・漢方の効果の不透明さが漢方を広める妨げになっていると思います。
- ・高校生の時よく足がつっていましたが、漢方薬は怪しそうで飲まなかったです。今日の話聞いて今なら飲んででもいいかなと思いました。
- ・奈良県出身の先生の机に陀羅尼助が置いてありました。「一番効くんだよ」と言っていました。こんな凄い薬とは知らなかったのが今日は面白かったです。
- ・奈良と言えば鹿です。鹿の角が漢方薬に使えることを奈良から発信すべきと思います。
- ・生活が変化しており長寿社会になっているので特に漢方薬は注目が集まり成長する産業だと思います。

(3) 授業成果（担当教員前川コメント）

本学は薬学部を有していないが県内の薬品メーカーに就職する学生も多い。学生からは「産学連携や有用な人材提供に資する薬学に関する国公立大学が奈良にない」や「奈良イコール薬という印象がない」、「製薬のアピールを兼ねてプロモーションビデオで中南部の魅力を発信すればよい」、「医療費・福祉費が財政を圧迫している現在こそ行政（国）の力で「配置販売」を奨励すべきだと思います」といった感想があり、奈良の製薬だけでなく中南部の課題解決に向けて真剣に考える機会となった。



1.1. 「地域社会における技術者の役割」 (平成30年12月18日実施)

奈良工業高等専門学校 准教授 竹原 信也 様



(1) 授業概要

奈良工業高等専門学校竹原先生から技術者の役割について、地域社会やグローバル化の視点から講義いただいた。また、QRコードを利用して科学者(サイエンティスト)と技術者(エンジニア)の違いや地域社会における技術者の役割や責任について受講生と一緒に双方向で考える授業を実施された。

(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・技術者にはイノベーションを起こす力があるという言葉が印象的でした。
- ・技術者の活躍が社会を発展させるために不可欠であると感じました。
- ・成功したら科学者が称賛され、失敗したら技術者の責任という話が印象的でした。
- ・技術者が地域にとって必要な存在であることがよく理解できました。
- ・Society 5.0という言葉は初めて知りました。調べてみます。
- ・人工知能やロボットが進むほど、手作りの良さにスポットが当たる気がします。
- ・技術者をはじめ色々な役割を持った人達が相互に関わり合うことが大切と思いました。
- ・地域社会と技術者のコミュニケーションが重要であると強く感じました。
- ・奈良県の企業は、技術力があるのに知名度が低いのが残念です。

(3) 授業成果(担当教員前川コメント)

技術者といえば理系のイメージが強いが、文系の考え方も必要であるし、文系・理系に関係なく地域社会における技術者の役割・必要性を理解できたと考えます。また、QRコードで先生からのアンケート結果をすぐに集計処理して前方スクリーンに反映する授業スタイルが新鮮でした。



1 2. 「奈良の現代産業に聞く」 (平成 30 年 12 月 25 日実施)

(株)ATOUN 取締役 小西 真 様

DMG森精機(株) 執行役員 安田 浩 様

(1) 授業概要

(株)ATOUN小西様からは、ベンチャー企業と大企業との違い、(株)ATOUNの企業ビジョンやパワーアシストロボットがもたらす近未来社会や生活について講義いただいた。DMG森精機(株)安田様からは、奈良で生まれた会社がお客さんと共に成長して世界のトップ企業になった会社経緯・会社の理念や目標の他、最新の工作機械について映像を交えながら紹介いただき、工作機械の無限の可能性について講義いただいた。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・文系の私にはあまり関係がないと思っていたが興味深く、就活的にも有意義でした。
- ・奈良でトップクラスの会社が世界をリードしていることに驚きました。
- ・ロボットや機械と人間との協働がより重要になると感じました。
- ・作業効率が良くなれば早く家に帰れるのではなくさらに作業量を増やす方向になると思います。
- ・パワーアシストスーツがあれば消防や防災の現場でも女性が活躍できると思いました。
- ・想像を現実にしていくことはとてもすごいと思いました。
- ・「ロボットは人間職を奪わない、人間が活躍する場を増やす」という企業ビジョン・コンセプトに共感しました。
- ・ベンチャー企業と大企業の特徴を理解することが出来ました。
- ・ベンチャーは仕事と趣味の境界線があいまいになりがちという話に考えさせられた。
- ・自由は責任を伴うという話に少し恐怖を感じました。
- ・現代の技術を生かして伝統産業を残していくことも可能なのではと思いました。
- ・工作機械の精度の高さに驚きました。技術の高さをもっと広く知ってもらいたい。
- ・工作機械の色が地味です。様々なバリエーションがあれば楽しい工場になると思います。



(3) 授業成果 (担当教員前川コメント)

奈良県の産業は観光や伝統産業のみといった固定観念やB to B企業といったことから両社ともトップクラスの技術力をもって世界をリードしている会社にもかかわらず、学生の認知度が低いことに私自身が驚いた。工作機械で作られた金属製の薔薇の画像やパワーアシストスーツを装着した女性が軽々と荷物を持ち上げる画像には皆が驚いた様子。奈良の企業が社会を変革させる可能性があることを理解する良い機会となった。

13. 「柿（奈良特産）を通じたマーケティングを考える」（平成31年1月8日実施）

奈良県 農林部マーケティング課 濱崎 貞弘 様
㈱マックス 代表取締役社長 大野 範子 様



(1) 授業概要

奈良県農林部の濱崎様からは、柿の性質・生産・歴史他、「柿が赤くなれば医者が青くなる」というほど健康にも良いといった話から、柿は食べるだけでなく様々な商品に応用でき、奈良の活性化につながるという講義をいただいた。県内に主力工場をもつ化粧品メーカー㈱マックス大野社長からは、県の特産品である柿の葉や柿の実に含まれるポリフェノール（タンニン）を主成分としたコスメ商品の開発や販売に向けたマーケティングについて講義いただいた。

(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・奈良が柿で有名であるという事は知りませんでした。
- ・柿が古くから親しまれたことを学び、歴史的な観点からも柿を見直せ、興味深かった。
- ・柿渋や柿の葉まで特産品を余すところなく活用しようとする思いの強さに驚いた。
- ・柿を使った奈良らしいお土産が確立すればよいと思います。
- ・衣食住の観点から、「柿の良さ」をもっとPRすべき。
- ・労働力不足や働き方の意識の変化が企業にダイレクトに影響を与える事に気付いた
- ・柿はグルメだけでなく、シャンプーや石鹸など手に取りやすい美容品として商品化されていることを知り、なるほどと思った。
- ・外国人観光客だけでなく、若い女性にも目を向けて商品開発を進めるのは良いこと。
- ・奈良のお土産にコスメが登場したことに本当に感動した。
- ・柿のマーケティングは自分が想像していたよりもずっと幅広く展開しているということに気づかせていただいた貴重な時間だった。

(3) 授業成果（担当教員前川コメント）

奈良の特産品である柿による地方活性化・マーケティングの講義を実施。奈良県農林部濱崎様から柿の葉の冷蔵保存技術や柿タンニンの抽出など様々な研究を行い多大な成果を上げられていること。㈱マックス大野社長からは企業経営者の立場で、柿を使ったコスメ新製品を前にして、観光客や女性をターゲットにするものではあるが



「ビーガン」仕様にしてインバウンド客の取り込みを図るなどマーケティングや販売戦略の重要性などの講義は現場の声が活かされ、教育効果も高い授業となった。

1 4. 「地方自治体の役割・課題を探る」(平成31年1月22日実施)

奈良県 地域振興部 次長 谷垣 裕子 様
下市町 地域づくり推進課 主事 林 力達 様
同 主事補 頃橋 海都 様

(1) 授業概要

下市町地域づくり推進課(林・頃橋様)から、下市町の概要説明の後、過疎化・高齢化が進行するなかで「元気」をキーワードとして住民が立ち上がったの地域創生の話を行った。また、奈良県地域振興部(谷垣次長様)からは、「地域振興を通じて、県民の幸せ・居住満足度を向上させる」ことを常に意識しながら県政を推進していることや奈良県という個性にこだわって取り組む仕事の楽しさを語っていただいた。



(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・“働く女性”とはこういう人のことを言うのだと感じた。生き生き輝いていた。
- ・自治体の役割を学ぶとともに自身の将来について考える機会を得ることができた。
- ・何によって人の幸せに貢献するかを考えて自分に合う仕事を考えてみたいと思った。
- ・谷垣さんの話を聞いてどれだけ奈良が好きなのか熱い気持ちが伝わってきて、奈良っていいなと思った。
- ・社会の変化を踏まえながら行政の仕事を話された内容が、行政の仕事を目指す自分にとって興味深かった。
- ・地域行政は自治体が関与せずにいると活性化は進まず、関与しすぎてもダメ、バランスが難しいと思った。
- ・住民自らが主体的に行動し、それが結果に繋がっているのが素晴らしい。
- ・シモイチナジカンなど自治体が上手く加わることによって、実際に若者を少しずつ取り込んでいることに驚いた。
- ・下市町に行ったことがなく知らないことが多かったが、授業を通して下市町について知ることができ行きたい場所も見つかった。

(3) 授業成果(担当教員前川コメント)

COC+参加自治体から講師を招き、自治体の役割・課題について講義いただいた。下市町からは、「GO下市、広がっていく元気!」をスローガンに住民の立場で地域の維持・コミュニティの継承の重要性を、奈良県谷垣次長からは、本学OGの立場から、「すべての仕事は誰かの幸せのためにある」「自分は何によって人の幸せに貢献できるのか」を問いかけながら、働きがいや自身のキャリア経験を披露いただき受講学生にとって今後の就職や自己の成長に対する心強い応援メッセージとなった。



15. 「学生による地域活動事例発表と総括講演」(平成31年1月29日実施)

野迫川村・十津川村にて活動している本学学生
(一財)南都経済研究所 主任研究員 吉村 謙一 様

(1) 授業概要

サテライト施設のある野迫川村及び十津川村で活動している学生の事例発表ならびに南都経済研究所から「『地方創生と社会人基礎力』～なら学+ (プラス)からの学びを今後効果的に社会で活かしていくには～」と題する総括講演を実施した。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・自分も参加、地域に対して何ができるか考えてみたい。
- ・野迫川村及び十津川村での活動は県南部に風を巻き起こしているのだと伝わってきた。
- ・自分たち学生でも地域の為にできることがあるのだなと感じることができました。
- ・大学生と小中学生との間で互いに多くの気づきが得られる良い取組みだと思います。
- ・奈良女塾で学んだ生徒が野迫川村で地域貢献するサイクルが生まれればこれ以上のことはないと思います。
- ・村のみなさんが喜んでくれることが嬉しいという言葉が印象的でした。
- ・ストレスを上手くコントロールしながら働きたいと思います。
- ・課題解決の手順を出口から逆算するという話が分かりやすかった。
- ・人生100年時代に求められる力を常にアップデートすることが必要という話が印象的。
- ・行動力を養えるようにオープンマインドで行こうと思います。

(3) 授業成果 (担当教員前川コメント)

サテライトを拠点として開講しているPBL型科目を受講し、野迫川村及び十津川村で現地住民や自治体職員とともに活動する学生達の発表は、多くの受講学生に驚きや刺激を与えたと思われる。また、南都経済研究所からの総括講演は、なら学+ (プラス) 授業で学んできたことをどのように活かしていくのか、どのようにして次のステップに繋げるのかといった社会人基礎力の手法を学ぶ有益な講義となった。

今回の授業を含め、15回の授業を通して、一人でも多くの学生が奈良の課題や現状把握に留まらず、奈良の将来を自分のものとして捉え、奈良に就職、奈良に定着してもらう行動へのきっかけになれば良いと考える。

最終課題レポート 『奈良への提案プラン』

なら学+（プラス）受講者に対して、授業を通じて得た知識や自分で調べたデータをもとに、『奈良への提案プラン』をひとつあげて、提案に至った背景や目的、具体的な内容や将来展望を以下の書式にまとめて提出させた。

1. 提案のジャンルとプラン名 （30字程度）
ジャンルは下記の6つ
（観光、伝統（地場）産業、コミュニティ、健康、暮らし、その他）
2. 背景・目的 （150字程度）
3. プランの具体的な内容 （500字程度）
4. 備考（プラン実施にあたっての課題など補足説明）

学生からは、様々な提案があり、奈良県ならびに（一財）南都経済研究所のご協力により優秀提案者に対して、奈良の歴史伝統観光産業といった礎をさらに発展させる『『なら』いにしえ賞』と、新たな奈良の未来を創生する『『なら』みらい賞』として表彰する予定である。

【学生から提出された提案プランの一部（抜粋）】

分野	提案プランタイトル
観光	現代の擬人化ムーブメントと奈良の観光資源を織り交ぜてみよう！
観光	宿泊する なら！！！！
観光	古都奈良に芸能人や歌手を招こう！
観光	歩いて学ぶ奈良の文化
観光	耕作放棄地をアジサイ畑に！天然甘味料アマチャでほっと一息
観光	聖地巡礼で観光客倍増計画
観光	『長屋王邸からの脱出』（リアル脱出ゲーム開催による若者層誘致）
観光	1400年の歴史-奈良の魅力 再確認～若者が集まるまちづくり～
観光	いま、やまとなでしこになる～奈良で磨くこころの美～
観光	～ちはやふるの世界～百人一首の歌碑巡りと競技かるた観戦&体験
健康	TERA WALK in NARA ～歩こう奈良の寺～
コミュニティ	地域住民全員を観光大使に任命して地域をPRしよう！計画
生活	地域の高齢者や若者が集い交流する「社会の家」創設プラン
伝統産業	奈良県の伝統（地場）産業を授業内インターンシップで体験
伝統産業	健康的に！古都地酒巡りツアー
伝統産業（靴下）	クリスマスするナラ～クリスマスに奈良の靴下はいかがですか？～
伝統産業（製菓）	やまと生菓の魅力の世界に発信キャンペーン
伝統産業（林業）	奈良の木子育てプロジェクト～クラス・遊ぶ・体験する～
特産品	奈良の特産品を使った料理教室や講義を通して奈良を盛り上げよう
特産品（柿）	「柿用いれば金になるなり宝石美（ほうせきび）」（1日イベント）

【問い合わせ先】

奈良女子大学やまと共創郷育センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL : 0742-20-3989

FAX : 0742-20-3993

URL : <http://www.nara-wu.ac.jp/yamato/index.html>